



13枚のガラスを石（稲田石）が包み込むようなデザイン

## ガラスと石の『祈りの碑』建立

フォースプレイス(株)、全国石材施工協会

2016年(平成28年)1月15日、長野県軽井沢町の国道18号碓氷バイパスで、大型観光バスがガードレールをなぎ倒して道路脇に転落した事故

が起きたことは記憶に新しい。乗客13人と乗員2人が死亡した事故であるが、死亡した乗客13名すべてが未来ある大学生だったことから、その痛ましさはより深く胸に刻まれることになった。

スキーバス転落事故の遺族らでつくられた「I・15サクラソウの会」は現場付近に慰霊の「祈りの碑」を設置。今年5月27日に建立式典が開かれた。事故の風化防止と交

通安全を願うこの式典には、JR福知山線脱線事故、中央自動車道笹子トンネル崩落事故、日航ジャンボ機墜落事故の遺族らも参加した。

高さ2.2メートル幅1.8メートルの「祈りの碑」は、13枚のガラスを石（稲田石）が包み込むようなデザインで、故人13人が13枚のガラスにイメージされている。この「祈りの碑」のデザインは遺族会の協議によって決まった。加工したのは、アートガラスの「光り墓」で知られるフォースプレイス株式会社(東京都港区)で、施工したのは一般社団法人全国石材施工協会(千

葉県松戸市)。同協会によると「元請け様から材料の仕入れを受けた協会員が「後々まで残るしつかりとした工事を頼みたい」との要望を受け、協会に対して施工の依頼が寄せられました」とのこと。

この碑には、痛ましい交通事故が二度と起こらないようにとの願いが込められており、交通安全の象徴となるような記念碑としての役割が期待されている。また、こうした記念碑を公道に建てるのは初めてとのこと、今後のモデルケースになるとの声もある。



5月27日に行なわれた建立式典にて